

令和5年度

第3回 大垣市子育て支援会議 会議録

令和5年度 第3回 大垣市子育て支援会議 会議録

日 時 令和6年2月27日 (火)

13 : 30～15 : 00

場 所 市役所8階 大会議室

1 会議次第

(1) 議題

- ① 次期子育て支援計画策定の進め方について
- ② 大垣市におけるこどもの居場所づくりについて

(2) 報告事項

- ① 大垣市立ひまわり学園の指定管理者の決定について
- ② 子育て世帯物価高騰対策応援金の支給について

2 出欠席等の状況

(1) 出席委員：13名（敬称略）

区分	氏名	役職等
学識経験者	光井 恵子	大垣女子短期大学幼児教育学科 学科長
	藤岡 恭子	岐阜協立大学 経済学部 教授
子育てに関し優れた識見を有する者	井上 直美	大垣市民生・児童委員協議会 主任児童委員会 会長
	中山 健一郎	大垣市小中学校長会 川並小学校 校長
	平野 宏司	大垣私立幼稚園連合会 キートスガーデン幼稚園 園長
	浅野 弘峰	大垣民間保育園連合会 みぞぎ 園長
	松村 麻里	大垣市PTA連合会 副会長
	三代 広子	大垣市子ども会育成連絡協議会 会長
	安田 典子	特定非営利活動法人 くすくす 理事長
その他市長が適当と認める者	沼口 諭	大垣市医師会 会長
	三輪 正直	大垣商工会議所 専務理事
	村橋 真喜子	連合岐阜西濃地域協議会 局員
公募委員	松好 和子	

(2) 欠席委員：2名（敬称略）

区分	氏名	役職等
子育てに関し優れた識見を有する者	大橋 奈麻輝	社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会 事務局長
公募委員	西脇 諭美	

(3) 事務局：15名

- 毛利 正人（こども未来部長）
- 浅井 靖弘（子育て支援課長）
- 川崎 彰浩（保育課長）
- 林 美智代（保育課対策官）
- 永井 康（子育て総合支援センター所長）
- 高木 康洋（子育て支援課主幹）
- 箕浦 利仁（子育て支援課主幹）
- 渡邊 英佑（子育て支援課主幹）
- 高木 明弘（保育課主幹）
- 伊藤 元之（男女共同参画推進室主幹）
- 御田村 真理（保健センター課長）
- 林 のり子（学校教育課主幹）
- 田島 善之（社会教育スポーツ課主幹）
- 松原 和彦（子育て支援課主査）
- 服部 夕里子（子育て支援課主事）

(4) 傍聴者 6名

3 議事（部分公開）

(1) 議題の審議

① 次期大垣市子育て支援計画策定の進め方について

資料No.1 次期子育て支援計画策定の進め方について

事務局 資料説明

会長 意見、質問等があれば挙手の上、発言願いたい。

E委員 次期計画の策定に向け、説明いただき期待が高まっている。行政が進め

るところと、民間が進めるべきところがあると思うが、両者が協力しながら進められると良いと感じた。公立と民間の二極化ではなく、子育て支援として、「多様性」という言葉がキーワードに挙がっているかと思うので、その観点からも、民間の力を活用して進めていけると良いのではないかと感じている。資料の中に「民間」という言葉を入れるということではなくて、考え方として、民間がどのように協力できるのか、教えていただけるとありがたい。

資料No.1の、大垣市第三次子育て支援計画の基本施策の中に、「ICT化の推進」とあるが、教育の観点でのICT化の推進を意味しているのか、業務管理の観点でのICT化の推進を意味しているのか、どういったものか教えていただきたい。

事務局 行政や民間だけでなく、社会全体で支えていくことが求められている。「こどもまんなか」を社会全体で進めていくという考えのもと、それぞれの役割の中でできる事を行うことを盛り込んだ計画を策定していきたいと考えている。

ICT化の推進については、事務及び保育の両面について進めている。

I 委員 来年度の子育て支援会議の中で、アンケート結果について報告いただけるとあるが、事前に資料を頂きたい。

事務局 検討させていただく。

会長 その他、意見等はないか。

委員 (発言無し)

会長 「議題1：次期子育て支援計画策定の進め方について」は「承認」としてよろしいか。

委員 (異議なし)

会長 議題1は、「原案通り承認」とする。

② 大垣市におけるこどもの居場所づくりについて

資料No.2 大垣市のこどもの居場所の考え方（案）について

参考 こどもの居場所アンケート結果の概要

事務局 資料説明

会長 意見、質問等があれば挙手の上、発言願いたい。

M委員 アンケートの結果を見て、家や学校以外の居場所があるかどうかを「考えたことがない、分からない」と回答している子どもたちが多くいて、家や学校以外の居場所という選択肢がない子どもたちが多いのではないかと思った。自分がこどもの頃は、年上のお兄さんお姉さんが一緒に遊んでくれたり、近所のおじいちゃんおばあちゃんと関わりがあって、親じゃないところに抛り所があったが、今はそういう場所がない子が多く、家族、学校以外に関係が築けていないので、こういった結果になったのではないかと感じた。

大垣市のこどもの居場所の定義として、こども自身のしたいことが自由に出来る場を提供するという事は、とてもいいことだと感じている。

大垣の子どもたちが地域と交流できているかを考えた時に、私はできていないと感じていて、民間が運営する子ども食堂だけでなく、地区センターを活用して地域が運営していくことはとてもいいことだと思った。民間ができる事、公共の地区センターができる事それぞれあると思うので、線引きをするのではなく、互いにできる事を協力してやっていけると良いなと感じた。実際どう役割を担っていくのかなどの具体はこれからだと思うが、こどもの顔が見える場所を作っていくことを進めていただけてありがたい。

事務局 こどもたちが行きたい場所をこどもたち自身で決めることが大切と思っている。場所だけではなく、人との関係、繋がりも大切にしていきたいと思っており、自分一人ではっとできる場所も必要だが、それを周りで暖かく見守る人も必要と考えていて、今後そのような形で進めていきたい。

G委員 保護者から、長期休みのこどもの居場所の必要性を聞くことがあって、今回このように居場所について検討いただけてありがたい。アンケートを

見ると、居場所を知らない子どもも多くいて、そういう子は居場所が欲しいか聞かれても、分からないとか、必要ないという回答になってしまう。児童館や、子どもの居場所となるところを知れば、「欲しい」と思う子はきっといるので、いろんな居場所が市内にできると良いなと思う。

事務局 民間や自治会など、いろいろなところで実施されている居場所について、市が取りまとめ、市民に情報提供できるよう現在進めているところである。

D委員 子どもたちを見ていると、居場所といっても、施設、箱といったハード面の整備もだが、そこへ行けば安心して過ごせるだとか、自分が必要とされていると思える場所である必要があると思う。毎日放課後にグラウンドを見ていると、学童の子以外の子で、結構な頻度で野球をやっていたりして、おそらく保護者が交代で見守っていて、1年以上続いている。その子たちにとってその場所は、「行くと好きなことが出来る、楽しい場所」というのもあるが、「安心して過ごせる場所」というのもあると思う。行政としてハード面の整備はもちろん必要だと思うが、保護者や子どもへそういった過ごし方があることや、場所を知ってもらうことも必要だと思う。自分たちでつながりを持てると一番いいと思うが、そういったサポートも必要と感じた。

事務局 ハード面について、新たに施設を作ることは難しいところがあるため、既存の公共施設や民間の施設を活用して進めていきたいと考えている。子どもたちにとって、安心して過ごせる場所を作っていくためには、事前にこういう場所があるということを子どもたちに伝えていく必要があると思うし、人とのつながりについても、非常に大切なことと考えているので、どういった形で進めていくのか検討したい。

F委員 アンケートの回答率について、小学生が91%、中学生が80%となっていて、不登校の子が増加傾向にある中で、このアンケートにはそういった学校に来ていない子の意見は反映されていないと思うが、子どもの居場所を一番必要としているのは、そういった問題を抱えている子ではないかと思うので、市内にいろんな居場所を作っていただく中で、子どもたちに情報が行きわたるようにしていただくと良いと感じた。

事務局 ご指摘いただいた通り、今回のアンケート結果には学校に来ていない

子の意見は反映できていない。そういった子たちのニーズについても勘案しながら進めていきたいと考えている。

会長 その他、意見等はないか。

委員 (発言無し)

会長 「議題2：大垣市におけるこどもの居場所づくりについて」は「承認」としてよろしいか。

委員 (異議なし)

会長 議題2は、「原案通り承認」とする。

(2) 報告事項

- ① 大垣市立ひまわり学園の指定管理者の決定について
- ② 子育て世帯物価高騰対策応援金の支給について

資料No.3 大垣市立ひまわり学園の指定管理者の決定について 資料No.4 子育て世帯物価高騰対策応援金の支給について
--

事務局 資料説明

会長 意見、質問等があれば挙手の上、発言願いたい。

C委員 報告事項②について、対象児童数約25,500人とのことであるが、これは高校生世代以下のすべての児童が対象なのか。

事務局 高校生世代以下のすべての児童が対象である。世帯数としては、約15,000世帯になる。

会長 意見も出尽くしたようであるので、報告事項についての協議は以上とさせていただきます。

最後に、会を通して意見、質問等あれば発言願いたい。

J委員 こどもの居場所について、アンケート結果を見ると祖父母の家と回答し

ている子もいて、大垣市はまだ二世帯同居をされている家庭もまだ多いのではないかと思うので、そういった資源を活用することも検討していくと良いのではないか。もちろん同居していない世帯もあるので、市内に様々な形に対応できるいろんな居場所ができると良いと思う。また、人間関係が様々である中で、オンライン空間も選択肢の一つになり得るかと思う。コロナ禍で外出が出来なくなった際に、ひきこもりの方や自閉症の子がオンライン空間でつながることが出来たという事例もある。対面で出来るのが一番いいと思うが、多様性の面や、今のDX社会から見てもオンライン空間も選択肢の一つになると良いと感じた。

また、医療的ケア児の方や、障がいを抱えている方が、自分の意思を持って教育を受けられる場を整備することも大切かと思うので、引き続き保育や教育の場で進めてもらえるとありがたい。

学校教育の現場で、医師会と連携して「がん教育」を行っている。癌について学ぶだけではなく、命の大切さについて考える場になっていて、いじめの抑止につながったりしている。自分の命を大切に思うということは、相手の命について考えることにもつながるので、命の大切さについて考える機会が幼少期からあると良いと感じている。

L委員 こどもの居場所について、アンケート結果の「分からない、考えたことがない」の中には、こどもの居場所に行ったことがない、知らないからという理由も確かにあると感じる。留守家庭児童教室に行ける子はいいが、留守家庭児童教室に行けない子は家で留守番するしかない状況がある中で、居場所について検討いただけありがたい。こどもの居場所として公園もあるかと思うが、遊具が少なかったり、ボール遊びができないなどの制約があるなどの理由で、あまり公園で遊んでいない現状がある。その中で、既存の施設、民間の施設の活用も含め検討いただいているということで、友達と一緒に過ごせたり、安心して過ごせる居場所があるというのは、こどもにとっても、親にとってもありがたいと思うので、ぜひ進めていただきたい。

D委員 アンケート結果で、中学生の回答に、オンライン空間を居場所としている回答が一定数あって、こどもたちにとってタブレットやオンライン空間は身近になっていて、こういったところも居場所の一つとして必要かもしれないが、情報モラルなど、基本的なことも必要になってくるかと感じた。

F委員 次期計画に関して、公立園の大きな取り組み、民間園のフットワークの軽さ等、お互い協力しながら進めると良いと思う。

H委員 資料のイメージ図はとても分かりやすく、こどもの居場所の分類や形がよく分かった。

アンケートについて、こどもたち自身がアンケートに答えることで、居場所について考える機会になったと思うので、アンケートを実施して頂けてありがたい。こどもたちの居場所となる基本の場所は家庭だと思う。家と園や学校で基本となる関係を作って、それ以外に少年団や塾など、別の場所に関係がある子はそこも居場所になったりしている。ひきこもりや不登校の子ども、家がその子の居場所になっていると思うし、こどもたち自身が、成長していく中でいろいろ考えながら、居場所を作っていくのではないかと思う。こどもたちの姿も多様である中で、市ができること、地域ができること、いろいろあると思うが、居場所がなくて困っている子、悩んでいる子に手を差し伸べていくことが行政や地域の本来の役割と感じている、その子や家族が困っているときにサポートできる、手を差し伸べることが大切かと思う。

M委員 こどもの居場所づくりについて、出来る人が可能な範囲で行うという考えが必要とあっていて、学習支援や子ども食堂など、居場所にも様々な分野がある中で、塾や飲食店など、その分野を職業としている方もいる。そういったところで、月に一回こどもたちが自由に利用できる日を設けてもらったり、利用者がいない時間帯にこどもたちの居場所として提供してもらって、居場所としての活動については市が一部補助するなどできれば、居場所の良い形になるのではないかと思う。

こどもの居場所づくりを実施する上で、団体と市、地域との関わり方について考えていく必要があるとあっていて、団体の中だけで完結してしまうと、自分たちの考えを押し付けてしまうことがあるので、関わり方の指導や調整機能として行政が入っていくことも必要かなと感じている。

給付金について、お金を頂けることはありがたいことと思うが、そのお金が実際にこどもたちのために使われているかどうか、保護者の娯楽など、こどもたちのためにならないところで使われているのでは意味がないと思うので、用途を限定するなど、難しい所ではあるが検討いただけると良いのではないかと思う。

病児保育については大垣市も実施していると思うが、病院での病児以外

の子どもの預かりについて、検討いただきたい。知り合いでこどもが急病になった際に、対応できる大人が一人しかおらず、救急車を呼んでこどもを病院で診てもらったが、その時にこどもの兄弟をみってくれる人がいなかったため、兄弟も連れて病院へ行き、とても大変だったという話を聞いた。病院の中に、少しの間こどもを見てくれる場所があればそういった保護者の負担も軽くなると思うので、一度検討いただけるとありがたい。

I 委員 次期子育て支援計画について、乳幼児期の子どもの相談について、来年度こども家庭センターが大垣市にできるということで、大垣市の子育て支援の体制も大きく変わってくると思う。こどもを中心に考えることはもちろんであるが、子育てする親の負担感を軽減することや、様々な家庭の形があるため、様々な分野の専門職と連携しながら取り組みを進めていただきたい。

G 委員 こどもたちが主体的に過ごせる場を想定して検討いただけてありがたい。現在主に小中学生を対象に検討しているとのことであるが、高校生も対象に検討いただきたいと思う。私自身居場所を週2回開催しているが、毎回100人近いこどもたちが来ていて、各地区でこうした居場所があると良いと感じている。継続して続けることで、こどもたちや保護者から相談してもらえたり、多世代交流の場になっていたりするので、市のサポートをお願いしたい。

産前産後の保育園の一時預かりについて、園によっては一か月前に予約が必要とのこと、9か月の妊婦さんが寒い中保育園に並ばなければいけないという話を聞いて、そういった方については優先していただくなどの対応をしていただけるとありがたいと思う。

E 委員 こどもの居場所の定義として「家庭や学校とは異なる人間関係や環境の中で、安心して安全に、仲間たちと一緒に学び」とあり、社会教育の側面も大きいと思う。社会教育士として活動される方も多くなってきている現状があるので、子育て支援の場面でも社会教育士の知見を活かせる場があると思うので、切り離して考えるのではなく、連携しながらやっていると良いのではないかと。

C 委員 部活動が居場所になっている子もいると思うが、部活動の地域移行が進んでいく中で、指導者の確保や協力を得ることが難しいことがあると思う

ので、市からもサポートいただけるとありがたい。

K委員 大垣市がどんな姿を目指しているのか示していただきたい。定義などについてはとても良いと思うが、今回のアンケート結果を見た時に、他市町村との比較等がないので、大垣市が現在どの立ち位置にいて、どこを目指すのかが分かりにくい。

こどもの居場所について、24時間開いている商業施設や店舗があったとして、こどもが居場所として利用する場合、こどもが非行に走るのではといった懸念がある。一方でそういった場があることで、こども自身は友達と遊べる、過ごせる場があるというプラスの面があるが、危険というイメージから推奨されず、経済的にもマイナスの要因になっていたりする。

いずれにしてもアンケートの数字だけでは大垣市が全国的にどの位置にいて、どこを目指すのかというのが分からないので、そういったところが見えるようにしていけると良いと感じている。

B委員 次期子育て支援計画の策定について、次期計画にこども・若者が権利の主体であることを条例に盛り込まれたり、計画の中に入れていくということで、大変良いことと感じている。また、こども・若者の意見反映、意見の尊重というところで、子どもの権利条約の中でも、意見表明権が重要項目として挙げられていて、どのように意見を表明する場を作るかが課題と思う。来年度こどもとの意見交換会も検討されているとのことで、学校の生徒会などに協力してもらって、意見を出してもらおうなどできると良い形で実施できるのではないかと思う。

会長 計画の策定にあたって、各分野の代表である委員の皆さんからいただいた今のご意見を参考にしながら進めていただけるとありがたい。こどもをまんなかに据えて進めていくことはもちろんであるが、こどもに関わる大人も、正しい知識を持って関わっていくことが大切と思う。また、保護者や園、学校はもちろん、地域、民間等が一体となって子育てをすることが必要である中で、行政は調整する役割も担っていると思うので、行政の中はもちろん、外部との連携を行えるよう、計画に盛り込んでいただけたらと思う。

事務局 本日の会議は以上をもって終了とさせていただきます。